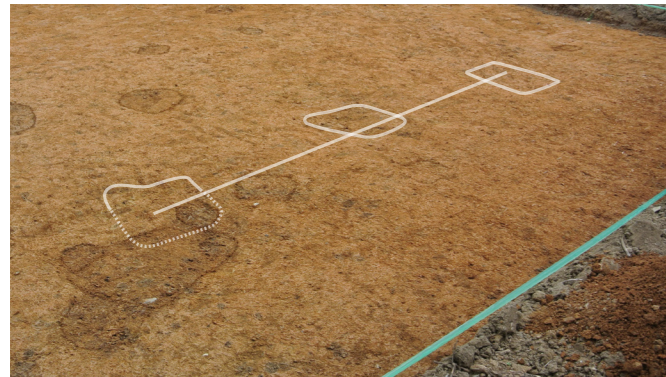


念仏山遺跡 国分町

5月8日～6月24日 個人住宅建設工事に伴う緊急調査 73㎡

柱穴や土坑等が見つかりましたが、これらの遺構が存在する深さは工事の影響を受けないことが確認されたので、遺構の掘削は行っていません。柱穴は方形で、3基が1列に並び、短軸2間の掘立柱建物である可能性が考えられます。遺物が確認されていないため建物の時期は不明ですが、柱穴の形状から、奈良時代ごろにこの付近に存在した寺院等の関連建物である可能性があります。



柱穴列 北西から

一反通遺跡 上野町 9月20日～10月27日

太陽光発電システムの杭打ち工事に伴う範囲確認調査 122㎡

これまでの調査で、弥生時代の初めから終わりごろまでの遺構が存在していることが分かっています。今回も過去の調査で発見された弥生時代の環濠の続きや、方形周溝墓や木棺墓などが確認されました。



環濠内に埋まる壺 北から

さらに、鎌倉時代ごろの遺物を含む溝を複数発見しました。土地を区画するための溝、もしくは道路側溝と見られます。



木棺墓 東から

速報展

発掘された鈴鹿 2017

2018年3月10日(土)～6月17日(日)



発掘調査前の写真撮影 (磐城山遺跡南東から)

磐城山遺跡 (第10次) 木田町

5月22日～継続中 農地改良工事に伴う緊急調査 700㎡ (予定)

例年通り多数の竪穴建物や土坑、掘立柱建物、そして溝等が重複して発見されています。

竪穴建物のほとんどは弥生時代のものですが、古墳時代の終わりごろの須恵器を伴う建物が1棟検出されました。過去の調査では、この建物から東および南へそれぞれ約40mの距離で、一辺70m以上の方形を呈すると思われる区画溝が検出されています。この区画溝からの出土物はわずかで時期の特定には至っていません。しかし、竪穴建物の方位がこの区画溝と同一であるため、区画溝も古墳時代の終わりごろのものである可能性があります。この区画はその規模や形状から豪族居館など、この地域の有力者の土地を区画する遺構との期待がありました。今回の調査結果によってその見方をさらに強めています。

また、室町時代ごろの溝が確認されました。過去の調査で検出された室町時代の道路、もしくは区画溝の続きと見られ、木田城に伴う遺構の可能性もあります。非常に興味深い遺跡ですので今後もご注目ください。



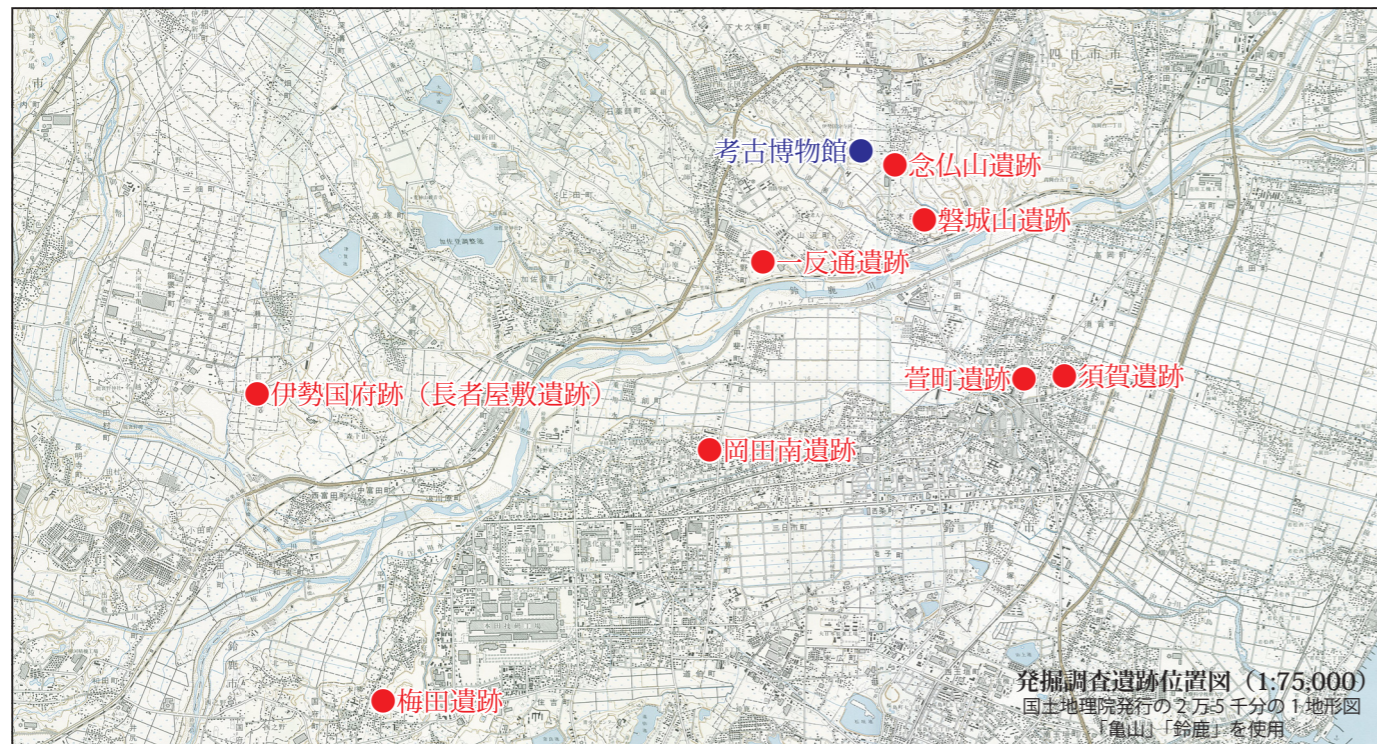
竪穴建物 北から



中世区画溝 南西から



纺锤車出土状況 南から



発掘調査遺跡位置図 (1:75,000)
国土地理院発行の2万5千分の1地形図「亀山」「鈴鹿」を使用

関連行事

発掘担当者による展示解説 (考古博物館 特別展示室) 4月14日(土) 13時30分～
スライド説明会 (考古博物館 講堂)

5月19日(土) 14時～ 「須賀遺跡第7次/伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)第35次・36次」

6月17日(日) 14時～ 「岡田南遺跡第4次/一反通遺跡範囲確認調査/磐城山遺跡第10次」 ※いずれも予約不要・参加費無料



鈴鹿市考古博物館
Suzuka Municipal Museum of Archaeology

〒513-0013 鈴鹿市国分町224番地
TEL059-374-1994 FAX059-374-0986
URL <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/>
E-mail kohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp

岡田南遺跡 (第4次) 岡田一丁目

8月31日～9月14日 個人物置建築工事に伴う緊急調査 23.19㎡

溝や竪穴建物などが確認されています。

溝は南北方向にはしり、過去の調査で発見されたものの続きと見られます。古墳時代の台付甕が出土しており、このころの溝と考えられます。

竪穴建物からはカマドが検出されています。この建物は奈良時代ごろのものと考えられ、さらに同じ場所で建替えが行われていた痕跡も確認されました。

そして、鎌倉時代から室町時代ごろの常滑焼を含む土坑が確認されています。付近からは同時期の井戸が数基発見されており、このあたりに集落が存在したものと見られます。



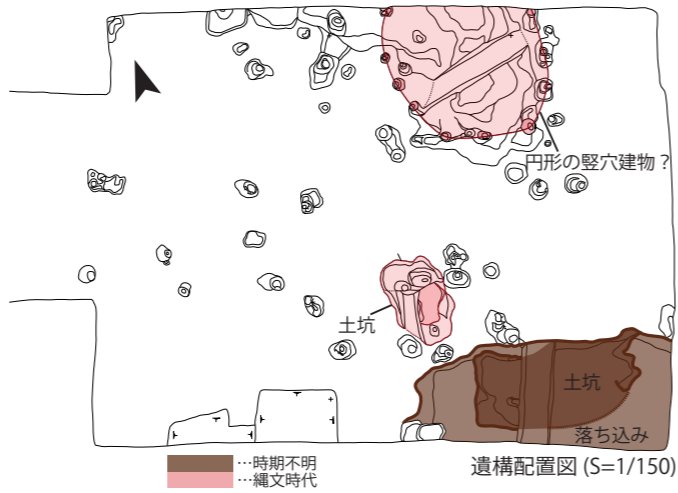
台付甕出土状況 西から



調査区全景 南から

梅田遺跡 (第2次) 国府町

11月21日～12月7日 個人住宅建築工事に伴う緊急調査 74.73㎡



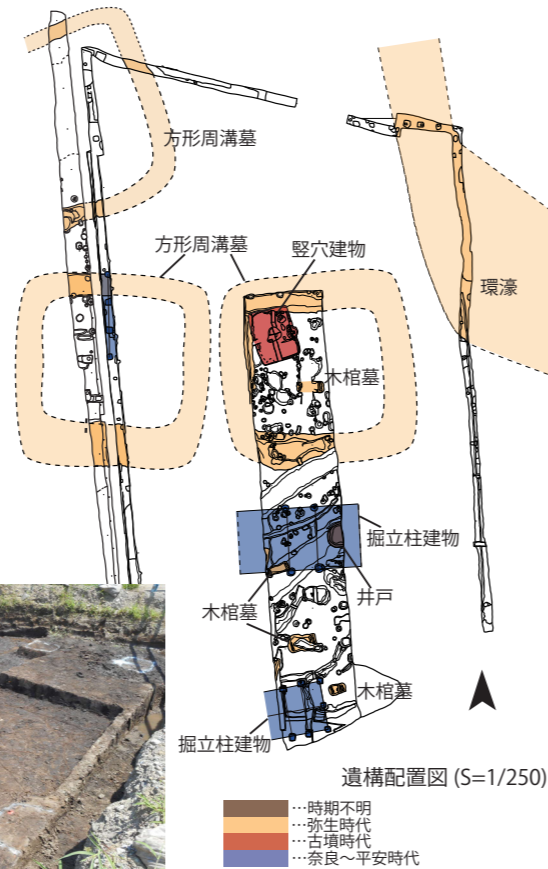
過去の調査では奈良時代から平安時代ごろ、それから鎌倉時代ごろの集落跡が確認されました。今回の調査ではこれらの時代の遺構や遺物は希薄で、縄文時代の土器片を伴う柱穴が発見されました。このあたりに縄文時代の集落があったのか、今後の調査に期待します。

須賀遺跡 (第7次) 須賀一丁目

4月10日～7月21日 宅地造成工事に伴う緊急調査 321.3㎡

弥生時代の環濠（集落を囲む溝）とその西側に位置する方形周溝墓数基が発見されました。また、方形周溝墓の付近からは時期不明の木棺墓が数基確認されています。木棺墓は両短辺に落ち込みがあり、小口板を地面に埋め込むタイプの木棺が納められていたと見られます。弥生時代を中心に使われていた木棺なので、この時期の墓穴の可能性を考えています。弥生時代には今回調査区の北東側に環濠をもつ集落があり、その西側が墓域とされていたのでしょう。

また、古墳時代の終わりごろの竪穴建物や、奈良時代～平安時代ごろの掘立柱建物が確認されました。過去の調査では奈良時代から平安時代ごろの集落跡が確認されており、今回見つかった竪穴建物はそれよりも古い時期のものです。



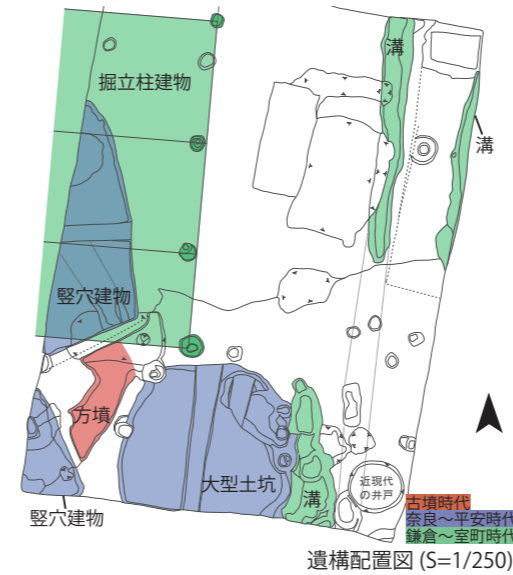
木棺墓 南から



柱穴列 北西から

萱町遺跡 (第4次) 神戸八丁目

9月20日～10月18日 個人住宅建築工事に伴う緊急調査 67.62㎡



古墳（方墳）が見つかっており、過去の調査で見つかった古墳などと共に古墳群を形成していた可能性があります。

また、奈良時代～平安時代ごろの竪穴建物などが確認されており、東に隣接する須賀遺跡の範囲にまたがって集落が存在していたと見られます。さらに鎌倉時代の掘立柱建物や溝等が確認されています。

神戸付近では、現在に至るまで、古い時代から人々の活動が活発だったようです。



調査区全景 南西から

伊勢国府跡 (長者屋敷遺跡) 広瀬町・西富田町 学術調査

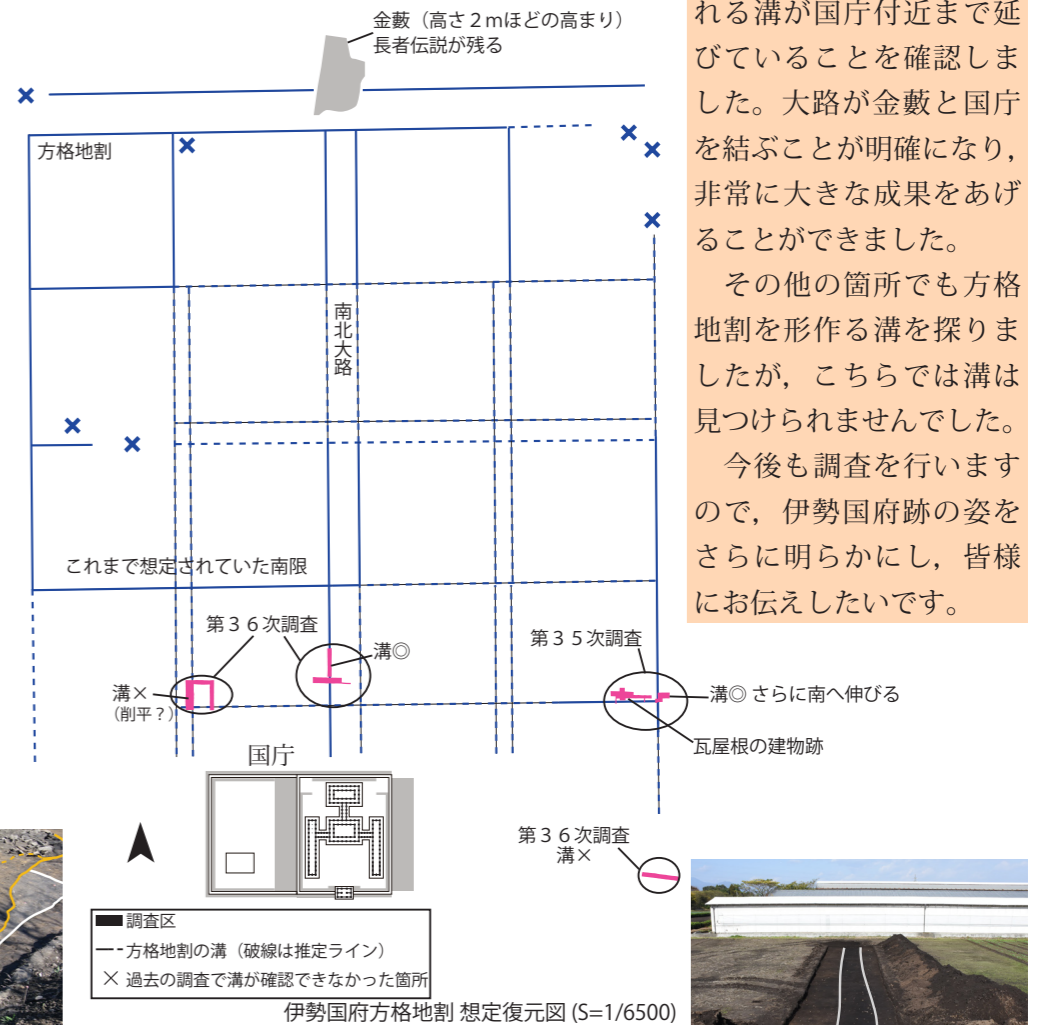
第35次 1月10日～3月9日 159㎡

431.5㎡ 9月1日～11月30日 第36次

国庁北側の方格地割を形作る溝の南側延長と、その付近にある瓦葺きの建物跡を確認しました。

溝は方格地割の東限に位置し、想定よりも南に伸びていました。

瓦葺きの建物跡は東西長19.5mほどで正方位をとります。建物跡の上には瓦を多量に含んだ層がありました。廃絶、もしくは改修の際に捨てたものと見られます。瓦は屋根から転落したのではなく、何枚かの平瓦と丸瓦がまとめて運搬され、埋められたようです。



瓦だまり 南西から



南北大路西側側溝 南から

南北大路の側溝と見られる溝が国庁付近まで伸びていることを確認しました。大路が金敷と国庁を結ぶことが明確になり、非常に大きな成果をあげることができました。

その他の箇所でも方格地割を形作る溝を探りましたが、こちらでは溝は見つけれませんでした。

今後も調査を行いますので、伊勢国府跡の姿をさらに明らかにし、皆様にお伝えしたいです。